



日本共産党創立100年

100年の歴史

1922年7月15日、日本共産党は創立しました。今年で100年になりました。

創立されたころは、天皇が国の統治の権限を握る専制政治の下でした。国民の人権は抑圧され、言論は厳しく取り締まられ、対外侵略が拡大されていた時代でした。主権在民・反戦平和を掲げることは、文字通り命がけの戦いでした。激しい弾圧で1935年1935年には党中央委員会の活動は中断せざるを得なくなりました（獄中などで不屈の戦いは続く）。

戦後の歴史の中では、旧ソ連や中国から乱暴な干渉を受けましたが、それらをはねのけ自主独立の立場を確立しました。

国内政治の中でも、党が前進すれば、抑え込もうとする勢力との戦いでした。80年代には「社公合意」で、「共産党を除く」という状況が生まれ、長く続きました。いま「野党共闘」への攻撃も大変なものです。

志位委員長は「日本共産党の100年は、日本国民の利益を擁護し、平和と民主主義、自由と平等、社会進歩を目指して、その障害になるものに対しては、それがどんな強大な権力であろうと、勇気をもって正面から立ち向かってきた歴史です」と語っています（7月14日記者会見）。

なぜ100年続いたのか

政党が100年という長い年月続いたというのは、日本ではもちろん世界的にもめずらしいことです。多くの政党が、国民に受け入れられない政策や過ちの中で、名前を変えざるを得なくなったのです。100年続いただけで称賛されるものです。

記者会見で、「なぜ続いたのか」という質問に、志位委員長は次のような3つの点を述べました。

- ① どんな困難の下でも国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性。
- ② 科学的社会主義を土台に、常に自己改革を進めてきたこと。
- ③ 常に国民との共同で政治を変えるという姿勢を貫いてきたこと。

そして、この100年の歴史は、「ただ歴史の問題にとどまらず、今生きる力を発揮している」と述べられました。「軍拡・改憲の問題」「ロシア・中国・アメリカなどの覇権主義の問題」「市民と野党の共闘の問題」「資本主義を克服する問題」など具体例も示されました。

日本共産党と私…〈深田徹さんに聞く〉

党創立100年にあたり、市内の最古参党員「深田徹」さんを訪ねお話をお聞きしました。

昭和7年生まれ90歳になりましたが、元気に凍とされていました（昨年まで数十部のしんぶん「赤旗」の配達集金活動もされていました）。



〈入党のきっかけは？〉

「敗戦後の中泉農学校時、谷島屋で買った宮川実の『経済学入門』を読んで衝撃が走った。これまで〇〇時代・△△時代と教わった歴史を、まったく違った見方をしていた。経済が土台となり、その上に政治・文化などあること、生産力と生産関係とで社会が変化し、資本主義から社会主義へとすすむことなどを初めて知った」その後、あらゆる本を読んで確信となってきたそうです。「昭和24年総選挙があり、日本共産党が39名当選した。そのすぐ後、県議会議員の磐田郡選挙区補選があり、びっくりする18000票ほど得票した。この運動の中で入党した。まだ17歳だった。いまでは18歳以上でないと入党できないが」

〈その後の活動は？〉

「昭和25年の朝鮮戦争へ向かう中、レッド・ページなど民主的運動への弾圧が強まり、党中央委員会も追放された。赤旗も発行停止となり、非合法での『平和と独立』などの印刷・配達活動なども行ってきた。昭和27年2月7日には「家宅捜索」を受けた。

詩集『めばえ』や歌声などの文化運動、青年運動にも取り組んできた。昭和30年には、袋井町青年団長も務めた」

〈どうして市議会議員へ？〉

「僕は『俺が…俺が…』というタイプではなかったが、昭和38年第2回の袋井市議会議員選挙に際して、地元議員の不正もあり、親の猛反対を押し切って立候補することにした。ところが、現職の党議員や党を支持する候補者がいたため、ごくわずかな地域を基盤とする大変厳しい選挙となった。ポスターも印刷する暇がなく、手作りのものだった。開けてみて驚くほど上位で当選できた」

その後5期20年間市議会議員を務められました。